

2000 年世界農林業センサス結果概要(解説・農家以外の農業事業体調査)

1. 事業体数

(1) 総事業体数

平成 12 年 2 月 1 日現在における千葉県の農家以外の農業事業体総数は 261 事業体で、平成 7 年と比べ 59 事業体 (-18.4%) 減少した。

これを経営目的別にみると、販売を目的とする事業体数は 160 事業体(構成比 61.3%)、牧草地経営を目的とする事業体数は 7 事業体(同 2.7%)、その他を目的とする事業体数は 94 事業体(同 36.0%) となり、それぞれ 20 事業体、6 事業体、33 事業体減少した。

経営形態別では、会社が 122 事業体と最も多く、次いでその他(任意組合、数戸共有等)が 73 事業体、農事組合法人が 22 事業体、国・地方公共団体が 20 事業体、学校が 18 事業体、農協・その他の農業団体が 6 事業体となっている。(第 38 表)

(2) 農産物販売金額別事業体数(経営目的が販売)

販売を目的とする事業体数について販売金額規模別に事業体数をみると、1 億円以上の事業体数は 72 事業体となり、構成比で 45.0%を占め、平成 7 年と比べると、2.8 ポイント上昇している。

法人組織の事業体について販売金額別に構成割合をみると、1 億円以上の層の事業体が 49.7%、5000 から 1 億円層が 16.6%と 5000 万円以上の層で 66.2%を占め、法人組織の事業体の経営規模が大きいことを示している。(第 39 表)

(3) 農業経営組織別事業体数(経営目的が販売)

販売を目的とする事業体について経営組織別に構成割合をみると、単一経営が 151 事業体で、全体の 94.4%を占めている。内訳をみると耕種部門が 42.5%で、そのうち稲作と花き・花木で 26.9%を占めている。畜産部門は 51.9%で、そのうち養鶏が 26.9%を占めている。(第 40 表)

2. 生産状況(経営目的が販売)

(1) 事業体の経営規模

販売を目的とする事業体の経営耕地面積は 630.0 ヘクタールであり、平成 7 年と比べると 46.2 ヘクタール増加した。そのうち畑が 281.6 ヘクタール(構成比 44.7%) と最も多い。(第 41 表)

(2) 部門別の経営規模

販売を目的とする事業体の主位部門・主位作物別事業体数をみると、養鶏が44事業体（構成比27.7%）と最も多く、次いで稲が23事業体（同14.5%）、花き・花木が22事業体（同13.8%）、養豚が21事業体（同13.2%）となっており、畜産部門を主位とする事業体が全体の54.1%を占めている。（第42表）

(3) 家畜の飼養事業体数と飼養頭羽数

家畜の飼養頭羽数を 1 事業体あたりで見ると、乳用牛 168.8 頭、肉用牛 350.6 頭、豚 3,941.0 頭、採卵鶏 123,580 羽、ブロイラー（出荷羽数）648,980 羽である。（第 43 表）

また、総農業事業体（農家を含む）に占める農家以外の農業事業体のシェアは、事業体数では 0.2%に過ぎないが、飼養（出荷）頭羽数では、乳用牛が 2.4%、肉用牛が 13.7%、豚が 17.2%、採卵鶏が 60.4%、ブロイラーが 56.7%の生産シェアを占めている。（第 44 表）